



20  
years

# UN GLOBAL COMPACT LEADERS SUMMIT

国連グローバル・コンパクト創立20周年記念のイベントとして、リーダーズ・サミット (UN Global Compact Leaders Summit) が6月15-16日にオンラインで開催されました。国連事務総長をはじめとする世界の政財界のリーダーに加え、日本からは公益財団法人笹川平和財団田中伸男会長、国連広報センター根本かおる所長と国連グローバル・コンパクト・ボードメンバーでGCNJ理事でもある国際航業呉文繡代表取締役会長がパネリストとして登壇し、健康、不平等および気候変動など、COVID-19によりあぶり出された前例のない危機に対応したリーダーシップについて議論を交わしました。

## Leaders Summit とは

国連グローバル・コンパクト Leaders Summit は、グローバルなアジェンダの実現に向けた企業責任について議論するプラットフォーム。開催期間中は、様々なセッションが開かれ、国連機関のリーダー、世界中の経営者、CSR 専門家、政府機関、市民社会団体などステークホルダーが、このプラットフォームに会い、SDGs やグローバル・コンパクト 10 原則の実現など、目標達成に向けたグローバルなアジェンダに取り組んでいきます。新型コロナウイルス感染症の影響で、今年はオンライン開催に変更せざるを得なくなったにもかかわらず、約 26 時間にも及ぶオンラインサミットは 2 万 2 千人もの人々が参加し、架空の会場を催した特設サイトには 180 カ国からサステナビリティ分野の専門家と有識者が集まりました。

## Leaders Welcome: Uniting Business for a Better World



アントニオ・グテーレス国連事務総長

「Recover Better, Recover Stronger, Recover Together」という大きなテーマを掲げる本サミットは、国連事務総長アントニオ・グテーレス (António Guterres) の開会挨拶で幕を開けました。グテーレス事務総長は、国連グローバル・コンパクト 20 周年の歩みを振り返った上で、「このサミットは、世界が COVID-19 パンデミックに対応し、グローバルな豊かさを取り戻そうとする中で、『より良く、力強く復興』を共に遂げ、さらに健全、安全、公正かつ豊かな世界をつくるために、企業が世界の国々とコミュニティをいかにサポートしていくかを考える絶好の機会」と述べました。さらに、世界中の企業に国連グローバル・コンパクト 10 原則と SDGs を戦略や計画に取り入れ、より野心的な目標を設定し、そして目標達成に向けて取り組むよう呼びかけました。



開会挨拶で笑顔を見せるリセ・キング  
国連グローバル・コンパクト CEO 兼事務局長

6月17日付けで退任する国連グローバル・コンパクト CEO 兼事務局長リセ・キング (Lise Kingo) も登壇し、世界中から集まった参加者へ感謝の意を述べるとともに、COVID-19 への対応は国連グローバル・コンパクト 10 原則と SDGs と切り離せないもので、COVID-19 危機との戦いに打ち勝つために国際的な連帯の精神を広く行き渡らせるべきであることを強調し、「COVID-19 危機は、人々の命を奪っているだけではなく、社会的・経済的格差も深刻化させています。この危機的な状況の中、企業を含め世界が一丸となることで、持続可能で包摂的な社会を作り上げ、『build back better』を遂げることが重要で」と述べました。

## 日本から見たこれからの世界とビジネス

Leaders Summit では、グローバルな全体会議のほか、地域別・テーマ別のセッションも開かれました。日本からは、公益財団法人笹川平和財団田中伸男会長、国連広報センター根本かおる所長と国連グローバル・コンパクト・ボードメンバーで GCNJ 理事でもある国際航業呉文繡代表取締役会長がパネリストとして登壇。それぞれジェンダー平等、COVID-19 を受けた日本の SDGs リーダーシップ、そしてアジアから見たサステナブルなリーダーシップについて、政府および企業のハイレベルなパネリストと意見交換を行いました。

### 「#TargetGenderEquality - Pathways to Parity」

ビジネスにおける女性のリーダーシップとエンパワーメントの一層の推進に向けた戦略と行動をテーマとした「#TargetGenderEquality - Pathways to Parity」セッションには、公益財団法人笹川平和財団田中伸男会長が登壇。



公益財団法人笹川平和財団  
田中伸男会長

2019 年のジェンダーギャップ指数では 153 カ国中 121 位を占め、さらに政治分野では 144 位に沈むという日本の現状に警鐘を鳴らす田中会長は、出遅れている日本の気候変動対策も指摘し、地球環境対策と男女賃金格差には負の相関が見られることからジェンダー平等の進展と地球環境問題の間には明確な相関関係があると述べた上で、「世界エネルギー・環境イノベーションフォーラム (ICEF) 会議は、地球環境改善において女性の活躍がカギを握ると結論しています。そして経済協力開発機構 (OECD) によれば、ジェンダー

バランスの取れた取締役会や管理職を持つ企業は、そうでない企業に比べ ESG 感応度が高いだけでなく、業績も良いとされています」と説明。さらに、「男性が支えて女性がリーダーシップを発揮すれば、日本のみならず、世界全体が変わるでしょう」と期待を寄せ、ジェンダー平等の実現、そしてより包摂的な社会を構築するために男性の関与を呼びかけました。

#### 「Sustainability Leadership in Japan in a COVID-19 World」

続いて国連広報センター根本かおる所長が「Sustainability Leadership in Japan in a COVID-19 World」と題したセッションに登壇し、COVID-19 の世界的拡大を受けた日本の持続可能なリーダーシップについて意見を述べました。COVID-19 危機が SDGs 達成に向けた取り組みに幅広い影響を及ぼしているなかで、日本の企業は貧困・格差の広がりや脆弱な医療制度など世界が直面している課題にどう対処していくか、また、「より良い復興」をどう遂げるかという質問に対し、根本所長は、世界が共通の危機感を持つこととなった今回のコロナ禍は、SDGs 達成に向けた取り組み加速の契機になると説明。さらに「COVID-19 は国連創設以降で私たちが直面する最大の試練であり、歴史の重大な転換点でもあります」と述べた根本所長は、広い分野にまたがる SDGs の統合的アプローチと『誰一人取り残さない (leave no one behind)』という大原則が収束後のニューノーマルを確立するうえで不可欠であることを強調し、最後に「最も弱い立場に置かれた人々と国が一気に可視化された今こそ、誰一人取り残さないという私たちの約束を中心に据え、グローバルな危機に立ち向かうべきなのです」と締めくくりました。



国連広報センター根本かおる所長

#### 「Personal Leadership for the Global Goals Asia」

SDGs 達成に向けた次世代のリーダーシップに関するセッション「Personal Leadership

for the Global Goals Asia」に登壇したのは、国連グローバル・コンパクト・ボードメンバーでGCNJ 理事でもある国際航業呉文繡代表取締役会長。企業は今後さまざまな課題に対処しながら、成長加速と社会的変革を達成するために、サステナビリティの取り組みにおいてリーダーシップを発揮できる次世代リーダーの育成が喫緊の課題となっている現状に対し、呉代表取締役会長は自身の経験を振り返りながら、「教育はもちろん大事ですが、次世代リーダーの育成においては、率先垂範を心掛けることも重要だと思います」と語りました。世界の長期的な持続可能性とレジリエンスをビジネスで最も優先すべきものであると説明する呉代表取締役会長は、さらに人材育成のコツを次のように紹介。



国際航業呉文繡代表取締役会長

「明確なメッセージを発信することは大事。SDGs を戦略と計画に取り入れ、中核的事業として実施することを通じて SDGs 達成への貢献を目指すという我が社のメッセージを発信し続けることで、将来サステナビリティ・リーダーとして活躍が期待できる優れた人材を獲得することができたのです。」COVID-19 のパンデミックについては、危機というより、むしろこれからのサステナビリティとビジネスのあるべき姿を再考する絶好の機会であるという呉代表取締役会長。最後に、「このチャンスを掴み、SDGs 実現へのモメンタムを最大限活かしていこう」と世界の企業のリーダーたちに力強く訴えました。

#### Passing the Baton: 行動の 10 年のためのリーダーシップ

クロージングセッションでは、アミーナ・J・モハメッド 国連副事務総長やドイツのメルケル首相などグローバル・リーダーが登壇し祝辞を述べたほか、6月17日の任期満了をもって退任するリセ・キング CEO 兼事務局長も再び登壇。閉会および退任挨拶をするとともに、グローバル・コンパクトの事務局長を務めた5年間を振り返り、「自社のビジネ

スと 10 原則・SDGs を統合して企業戦略の中核に位置づけ、事業活動全体を通じて推進することこそが、これからの企業の進むべき道です。このアプローチがニューノーマル(新しい常態)になるように、多くの企業に取り入れてもらいたい。」と述べ、サンダ・オジャンボ (Sanda Ojiambo) 次期 CEO 兼事務局長にバトンを渡しました。

サミットの最後を締めくくるのは、二人目の女性事務局長となるサンダ・オジャンボ新事務局長による閉会および就任挨拶。20 年を渡って国連機関と幅広い企業・市民団体と緊密なパートナーシップを築いてきたオジャンボ新事務局長は「COVID-19 パンデミックという前代未聞の危機は、気候変動や拡大する格差など、社会のあらゆる弱点を露呈させ、世界を揺るがせています。企業は、経済社会システムを持続可能なものにする社会変革において重要な役割を担っています」と強調した上で、これからは長年に渡って培われてきた経験を元に、企業と共にサステナビリティを推進していくと力強い声で宣言しました。



サンダ・オジャンボ新事務局長

#### UN Global Compact 20th Anniversary Progress Report: Uniting Business in the Decade of Action

今回のサミットでは、国連グローバル・コンパクト 20 周年進捗状況報告書が発表されました。この報告書は、企業の SDGs と 10 原則の達成度合いやこれからの課題など、年次調査の結果に基づいて解説しています。詳細はこちらからご覧ください：

<https://go.aws/30WX2mS>

※公開セッションの様子は、後日 YouTube に掲載予定です。